

～高校生と赤ちゃんのふれあい交流～

@鹿本商工高等学校

1対1の貴重な実習！

本校では、平成20年度から山鹿市主催の「高校生と赤ちゃんのふれあい交流」に参加しています。子育て親子さんは、市の支援センターで呼びかけてくださるのですが、年々と認知度が上がり、お母さんがたも大変協力的で、今年度は生徒の人数と同じくらいの乳幼児が参加しています。時々、お仕事がお休みのお父さんが参加して下さるときもあります。

充実のふれあいタイム

最初は不安な顔つきだった生徒たちも、慣れない手つきであやしたり抱っこしているうちに自然に笑顔になっていきます。時には、授業で練習していても、怖がって後ずさりをしてしまう生徒もいますが、腕に抱かせてあげると「人形と違って、柔らかくて温かい」といって、はにかみます。40分ほど交流の時間をとっていますが、あっという間に過ぎてしまい、最後はどちらも名残惜しそうにバイバイといつまでも手をふったり、タッチしている様子がみられます。今回は男子のみのクラスでしたが、将来のパパぶりを発揮しているようでした。最後に、学校家庭クラブの一環として、フェルトで作った野球ボールをプレゼントし、交流会を閉じました。



お母さんからのお話

毎回お母さんがたに子育てのお話をしていただきますが、大変臨場感あふれる内容で毎回生徒も真剣に聞き入っています。今回は、「平日の過ごし方」をお話され、「朝から晩まで、ひといきつく暇もなく過ぎていき、だからこそ夫が休みの日に少しだけ子どもとでかけてくれると、心にも余裕がでて、とても助かる。」とお話しされました。それを受けて、男子生徒は感想の中で、「お母さんがそんなに自分の時間がないとは知らなかった。」、「自分にできることはしたい。」、「育休をぜひとりたい。」と、書いていました。

男女共同参画社会へむけて…

男女共同参画を取り扱うときに、「現在は男性の育児休暇取得率が2.3%であり、2020年までに13%にするという目標がある。」という話をします。2020年といえば、いまの3年生は22歳。ちょっと若いお父さんです。目標達成にはまだまだ時間がかかるように思います。彼らの純粋な願いが叶って、男性でも育児休暇がとりやすい社会になることを願っています。

